



総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部
消費者行政課 課長補佐

寺本 邦仁子

Kuniko Teramoto

平成 15年 4月 総務省採用
同 郵政行政局財企画課
平成 15年 8月 同 情報通信政策局地域放送課
平成 16年 7月 同 郵政行政局総務課郵政事業連絡調整室
平成 17年 10月 同 総合通信基盤局電気通信事業部
高度通信網振興課
平成 18年 8月 同 情報通信政策局情報通信政策課コンテンツ
流通促進室アーカイブ推進係長
平成 19年 10月 同 情報通信政策局情報通信作品振興課
流通技術係長
平成 20年 7月 同 情報通信国際戦略局情報通信政策課
政策係長
平成 21年 7月 山梨県知事政策局政策主幹
平成 22年 4月 同 企画県民部情報政策課長
平成 23年 4月 総務省情報流通行政局地域通信振興課課長補佐
平成 25年 8月 積水化学工業株式会社住宅カンパニー
商品開発部商品企画部課長補佐
平成 26年 11月 内閣官房日本経済再生総合事務局参事官補佐
平成 27年 8月 現職

やりたいこと、ある？

なにしてるの？

3年前は、総務省で東日本大震災の復興事業を担当していました。被災地に赴き、新たな防災システムや災害に強い通信ネットワークを構築するための予算事業をつくり、多くの被災地や今後災害が予想される地域で活用いただきました。

2年前は、出向した住宅メーカーで戸建住宅の企画開発を担当していました。商用電源に頼らない生活を実現するために、パートナー企業や電力会社との交渉、営業ツールの企画から営業担当への研修まで取組み、業界初の商品の全国発売を実現しました。

1年前は、内閣官房で日本再興戦略の改訂を担当していました。経済成長のためにICTで何ができるかを考え、サイバーセキュリティやマイナンバー、情報通信環境整備などについて戦略にまとめました。中でも、情報の円滑な流通やビジネスモデルの変革等の促進に向けた制度整備を行うことについては、当時の成長戦略の目玉の1つとして位置付けることができました。

そして今、再び総務省に戻り、電気通信サービスに関する消費者行政を担当しています。新たな時代に対応した消費者保護ルールや、個人情報・プライバシーの保護、青少年のインターネット利用環境整備などに加え、携帯電話の不正利用の防止や違法・有害情報対策などに取り組んでいます。

たのしいの？

一見バラバラに見えるこれらの業務に、共通することが2つあります。1つは新たな技術や社会情勢に合わせて今までにないモノを作り出しているということ。そしてもう1つは私自身の考えを積極的に盛り込んできた、ということです。

新しい技術、スピードの速い市場を相手にするICTの分野では、既存概念に捕らわれることなく、物事を多面的にとらえ視野を広く持つこと、様々な状況に順応する柔軟な思考で新たな世界に挑んでいくことが求められます。

「ICTで社会の仕組みを変える!」との思いから作成した提案書で、日本再興戦略に盛り込んだ新たな制度整備の方向性などは、現在の法制度に捕らわれずに技術進歩や民間の動向を踏まえ自らで考え、かつ、それに取り組むことを認めてくれた上司がいたからこそ実現できた成果だと思っています。

常に新しい情報の吸収に努め、上司も部下もなく様々な角度から議論を行い、多様な経験を積みながら自分自身の考えを実現していくこと



中学からの同級生とのプライベートな集まり。緊張感のある仕事とのメリハリになります。

のできるこの職場は、いろいろな刺激に溢れていて飽きることはありません。

やりたいこと、やってる！

日本を元気にしたい、そして、自分自身も向上したい。私が就職するときに重視した点です。

ICTは現代社会を動かす重要なインフラとして、この国のこれからを考えるときに不可欠な要素ですが、同時に、制度よりも市場の変化が先を行く分野でもあります。

そんな分野を主戦場に、新たな市場や社会の仕組みを作ることで日本を元気に、そのために常にアンテナを高く張り自分自身の向上にも努める。入省して13年、総務省に決めた時の思いを実現できる、やりがいと刺激のある日々を送っています。

総務省で自分のやりたいこと、実現してみませんか？総務省はみなさんの多様な期待、希望に十二分に答えてくれる職場です。自らの強い思いと責任感を兼ね備えたみなさんと、議論を交わし次の新しい政策を作り上げる日々がくることを楽しみにしています。



「放送コンテンツの海外展開」

「放送コンテンツの海外展開」と聞いて何をイメージするでしょうか。

世界を飛び回り番組の販売先を新たに開拓する総合商社、海外ニーズを調査し現場に反映する番組制作者、放送コンテンツと他産業を結びつける代理店等々、関係するプレーヤーは様々です。

今までなかったものを

私は、このように一言では漠としてつかみ所のない「放送コンテンツの海外展開」の推進に取り組んでいます。先に触れた多様なプレーヤーが存在するのと同様、政策の対象や内容も多岐にわたります。このミッションを与えられて1年半ほどで、海外展開のために必要となる様々な権利の円滑的な処理、新たな市場の開拓に向けた外国政府との交渉や不正流通対策、スポンサーとなる異業種と番組制作者とのマッチング等、多様な観点から「放送コンテンツの海外展開」を推進してきました。中でも印象に残っているのは、事業者による海外展開の取組をモデル事業として支援

したことです。支援した番組のなかで取り上げられた地方のスイーツがタイ国で人気を博し、現地出店に挑戦し始めるといった好事例も生まれています。コンテンツへの支援を通じて、コンテンツではない新たなビジネスが展開されていく様子を間近で感じ、心が熱くなったのを覚えています。

今まさに取り組んでいるのは、地域への波及効果の実現に向けた放送コンテンツの活用とその支援制度の確立です。地域産品の海外展開の推進や訪日観光客の増加の実現に向けて、コンテンツの持つ強力な発信力をどう生かしていくか、政府の各種戦略でもその実現が求められています。限りのある予算の中でどの部分に財政的支援が必要か、どうすれば国益に資する予算の使い方ができるか、支援制度がなくなった後はどうなるかなど、様々な状況を想定しながら立案に取り組んでいます。

これまでになかった事業モデルを作り出すためには、対応しなくてはならない課題も多く、課内で議論を重ねるのはもちろんのこと、実際にビジネスを行う事業者の皆さんの意見を取り入れながら、1つではない解を模索し続ける毎日です。自分が設計する制度が実際に使えるものになるのか、プレッシャーはありますが、実に魅力的で意義深いものだと思っています。

ほんの少しの充足感を胸に

自分が携わった政策が実現し、現実の世界がほんの少し変わる瞬間に遭遇することがあります。例えば、放送で取り上げた商品が順調に販売数を伸ばしている、これまで知られていなかった地方の観光地に外国人観光客が足を伸ばしているなど、その機会は数え切れないほどです。そんな少しの充実感が明日への原動力となります。

「寝床につくときに、翌朝起きることを楽しみにしている人間は、幸福である。」

翌朝の世界がほんの少し変わる瞬間を楽しみに働いてみるのはいかがでしょうか。興味のある方は是非総務省の門を叩いてみてください。



J series festival(アジア諸国における日本ドラマのプロモーション)に関する打合せ風景

放送コンテンツの海外展開



総務省 情報流通行政局 情報通信作品振興課 流通調整係長

佐藤 隆亮

Takaaki Sato

平成 24年 4月 総務省採用
同 情報流通行政局郵政行政部企画課
平成 26年 7月 同 情報流通行政局情報通信作品振興課
平成 27年 8月 現職